



研究者名※	小野瀬 宗一郎 ONOSE Soichiro	学位※	M.Phil (Criticism and Culture) 修士 (学術)
所属※	文学部 英文学科	職名※	講師
URL	onosos@fc.jwu.ac.jp		
researchmap※	https://researchmap.jp/sonose117		
研究分野※	20世紀前半のイギリス・アイルランドの文学と文化		
研究キーワード※	ジェイムズ・ジョイス、モダニズム、イギリス・アイルランド文化史		
共同研究・競争的資金等の研究課題			
社会貢献・産学官連携活動等	オンライン読書会「22 Ulysses—ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ』への招待」企画と運営(2022年)		
受賞歴			

研究領域	ジェイムズ・ジョイス研究、モダニズム文学研究	(SDGs)
研究テーマ※	ジェイムズ・ジョイスの作品における政治の研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 アイルランド出身の作家ジェイムズ・ジョイス(1882-1941)の小説を、当時のイギリス・アイルランドの社会状況、なかんずくナショナリズム等の政治運動に照らし合わせて研究している。ジョイスは長年政治に関心のない作家だと考えられてきたが、1990年代以降ポストコロナ批評の隆盛を受け、大英帝国末期のアイルランドで育ち、当時の英愛関係を巡る政治情勢が緻密に書き込まれた作品を著したジョイスを、20世紀前半のアイルランドを代表するポストコロナ作家として捉え直す機運が高まった。本研究はジョイス研究におけるこのような流れを汲み、ジョイスの作品をより精緻な歴史的文脈に位置付けながら、20世紀前半のイギリス・アイルランドの政治情勢がジョイスの作品に及ぼした影響を探ることを主眼としている。</p> <p>【応用例、研究の展望】 博士論文では、ジョイスが1922年に著した長編小説『ユリシーズ』を20世紀初頭にアイルランドで興ったナショナリズム運動に引き付け、ジョイスの実験的な意匠が同世代の若手ナショナリストたちが牽引した急進的な政治運動に触発されていることを示した。今後の研究の展望としては、ジョイスが『ユリシーズ』に続いて著した『フィンネガンズ・ウェイク』を1930・40年代のイギリス・アイルランドの政治情勢に照らし合わせて考察し、引き続きジョイスの作品における政治と芸術および言語の関わりを検証することを目指したい。これと並行して、ジョイスに影響を受けた同時代のイギリスの作家(ヴァージニア・ウルフやジョージ・オーウェル等)の作品も扱い、より広範な文脈でモダニズム文学と英愛政治の接点を探りたいと思っている。</p> <p>【研究方法の特色】 ジョイスの作品を考察するにあたり、当時の刊行物(新聞・雑誌・パンフレット等)や政府文書、議事録や手紙を含む様々な一次史料を活用し、関連する歴史的文脈をより精緻に検証することを目指している。</p>	
本研究関連特許・論文等	<p>・小野瀬宗一郎「第十二挿話『キュクロプス』のインターポレーション再考」下楠昌哉・須川いずみ・田村章編著『百年目の「ユリシーズ」』松籟社、2002年</p> <p>・So Onose. “A Portrait of the Artist as a Young Toneite.” <i>James Joyce Quarterly: “A Portrait of the Artist as a Young Man” Special Anniversary Issue</i>. Vol.56, Nos.1-2 (Fall 2018-Winter 2019): 63-80</p>	
共同研究・外部機関との連携への期待	若手ジョイス研究者との共同研究	